

昨年度までの協議会の経過及び平成19年度の検討項目について

	協議会	担当者会議	ワーキンググループ (WG)	成果及び検討項目
H16年度	第1回 H16. 8. 3 第2回 H17. 3. 29	第1回 H16. 9. 17 第2回 H16. 10. 27 第3回 H16. 11. 1 第4回 H16. 12. 2	-	協議会の目的及び進め方の検討 四面会議による議論(課題の抽出・目標設定)を実施 ・防災・農政・都市計画、土木部局が参加 ・「地域で守る」「自分で守る」グループで四面会議実施 行動計画書の作成
H17年度	第3回 H17. 12. 1 第4回 H18. 3. 27	第1回 H17. 8. 4 第2回 H17. 8. 31 第3回 H17. 10. 26 第4回 H18. 2. 2 第5回 H18. 2. 23 第6回 H18. 3. 20	浸水危険度マップ(高頻度版)WG [モデル市：草津市] 第1回 H18. 1. 11 第2回 H18. 1. 30 第3回 H18. 2. 13 第4回 H18. 2. 20	情報伝達(情報取得・情報伝達・情報内容)の見直し検討 浸水危険度マップ(高頻度版)の作成 ・草津市をモデル市として実施 ・確率規模別の浸水危険度マップ作成 ・都市計画用、農政用の2種類の図面を作成 避難勧告技術基準の考え方検討 マニュアル及び先行事例を題材として考え方を検討 ため池の防災対策検討 豪雨等で破壊の可能性があるため池について現状を整理
H18年度	第5回 H18. 10. 24 第6回 H19. 2. 27 第7回 H19. 3. 29	第1回 H18. 7. 11 第2回 H18. 9. 7 第3回 H18. 12. 5 第4回 H19. 2. 19 第5回 H19. 3. 26	浸水危険度マップ (洪水ハザードマップ)WG [モデル市：草津市] 第1回 H18. 10. 18 第2回 H18. 11. 21 第3回 H18. 12. 21 第4回 H19. 1. 18 <草津市主催ワークショップ> 第1回 H18. 9. 30 第2回 H18. 10. 29 第3回 H18. 12. 9	浸水危険度マップ(洪水ハザードマップ)作成 草津市をモデル市として、住民参加型のワークショップ 形式で洪水ハザードマップを作成 情報伝達の見直し検討 情報伝達手法の現状と課題・今後の整備の方向性を確認 (各市へのヒアリング調査を実施) 情報内容の見直し検討 避難準備情報、避難勧告、避難指示の共通文書を作成 避難勧告技術基準(避難の目安となる指標)作成 野洲市をモデル市として、避難準備、避難勧告、避難指示 の目安となる指標を作成 浸水危険度マップ(高頻度版)の公表と活用 草津市をモデル市として公表資料を作成するとともに、 宅地造成業者等に浸水危険度を周知するための、浸水危険度 マップ詳細版(拡大図面及び詳細な浸水深情報を記載)を関 係部局での閲覧用資料として作成 土地利用のあり方についての議論 浸水危険度が高い地域の土地利用のあり方について、都市 計画のマスタープランへの反映方法について議論 危機管理演習構想企画 草津市をモデル市とした、住民参加型の危機管理演習につ いての構想を企画
H19年度	第8回 H19. 12. 6 第9回 H20. 3(予定)	第1回 H19. 7. 11 第2回 H19. 8. 6 第3回 H20. 1(予定) 第4回 H20. 2(予定)	避難の目安となる指標WG [モデル市：野洲市] 第1回WG H18. 11. 07 第2回WG H18. 12. 22 第3回WG H19. 1. 11 草津市における洪水避難訓練 H19. 5. 27 行政内情報伝達演習 H19. 6. 12 土地利用のあり方WG [対象：全市、出前講座形式] H19. 12 ~ H20. 1(予定)	草津市における洪水避難訓練の実施 行政内情報伝達演習の実施 情報伝達・情報内容の見直し検討 自主防災組織の活性化検討 災害時要援護者に対する援護検討 ・円滑かつ迅速な避難を確保するための措置の促進 ・援護体制についての情報共有 浸水が想定される地域の土地利用のあり方検討 ・土地利用のあり方検討(意見交換・実施方針検討) ・高頻度浸水区域の土地利用変遷・具体的危険箇所 の整理 ・浸水危険度マップ(洪水ハザードマップ)の普及検討

平成 19 年度の検討項目(案)について

平成 18 年度の「水害に強い地域づくり協議会」での検討結果を踏まえ、平成 19 年度の協議会では、以下の項目について、検討を実施するものとする。

テーマ	平成 19 年度の検討項目(案)	平成 20 年度以降の検討項目(案)
自分で 守る	1 .浸水危険度マップ(洪水ハザードマップ)の普及 水防災に対する啓発や洪水メカニズムを住民にわかりやすく伝えるための技術支援(研修会、意見交換会等に用いる資料の作成や講師として参加)	浸水危険度マップ(洪水ハザードマップ)の普及 普及活動を継続
	2 .危機管理演習の実施 危機管理演習の検討 (行政内情報伝達演習、洪水避難訓練) 協議会での検討結果について検証を実施 行政内情報伝達演習の実施 草津市における洪水避難訓練の実施 情報伝達・情報内容の見直し 危機管理演習の結果を踏まえ、課題を再抽出し、改善策を再検討する。	危機管理演習の実施 情報伝達・情報内容の見直し検討の後、再度、D I G 訓練や危機管理演習を実施し、情報伝達の検証を実施 避難勧告等発令に際しての支援体制の整備 中小河川を対象とした「はん濫危険情報通報システム」の検討 市が避難勧告等発令に際して、市の判断をサポートする仕組みづくりの検討
みんな で守る	3 .自主防災組織の活性化 地域防災のあり方についての意見聴取 ・各市の取組み状況について情報交換を行う。 ・自主防災組織の組織率に各市で差があり、組織構築が困難な理由、問題点などを整理し、対応を検討する。	自主防災組織の活性化 自主防災組織の活動に関するわかりやすいマニュアル(案)の作成 危機管理行動計画の策定 住民参加による行動計画(避難、救助、応急復旧)の検討 危機管理行動計画(案)の作成 河川関係部局・防災関係部局によるワーキング
	4 .災害時要援護者に対する援護体制の整備 円滑かつ迅速な避難を確保するための措置の促進 水防法第 15 条の規定に対する各市の速やかな対応を図る。 情報共有 全国的な取り組み事例を整理すると共に、各市が活動状況を報告し、情報共有を図る。	災害時要援護者に対する援護体制の整備 ネットワーク化の手順検討や活動のフォローアップ 避難支援プラン(案)の作成 モデル市(関係機関)によるワーキング

D I G 訓練

Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字を取って命名されたもので、参加者が地図上に具体的なハザードを書き入れ、それが発生した際の行動をイメージし、水害時の対応や意識を高めるものです。

テーマ	平成 19 年度の検討項目	平成 20 年度以降の検討項目
地域で 守る	5 . 浸水危険度マップ（高頻度版）の活用 基礎情報の整理 ・高頻度浸水区域の土地利用変遷を整理し、家屋建設等の実態を把握する。 ・具体的な高頻度浸水危険箇所を整理する。	浸水危険度マップ（高頻度版）の活用 確率規模別の対応方針（土地利用の誘導、建築物の工夫、浸水時の交通規制・避難誘導等）の検討 モデル市（草津市）によるワーキング
	6 . 浸水が想定される地域の土地利用のあり方検討 土地利用のあり方の検討 ・出前講座方式による意見交換を実施（全市個別開催） 具体的な危険箇所を想定したケーススタディー方式で土地利用のあり方について方向性を決定する	浸水が想定される地域の土地利用のあり方検討 具体的な治水対策、都市計画マスタープラン、地域防災計画への反映等について検討を継続